ATLUS

Princess Crown

Extra Booklet

Introduction



「プリンセスクラウン」PSP版に寄せて
ヴァニラウェア（有）神谷盛治

「プリンセスクラウン」ご購入ありがとうございます。

私はセガサターン版でディレクションを務めた者です。
今回、設定資料集のためのコメントを依頼されまして、少しばかり当時を思い出しつつ開発秘話などを記そうと思います。

当初この企画は、短期少人数開発という前提で立案されたアクション要素のある、お姫様育成ゲームでした。
当時プレイステーションと、セガサターンの戦いは始まったばかりで、双方ＲＰＧタイトルが不足しており、どちらが有利ともいえない熱い状況にありました。
それを受けて育成からＲＰＧへと企画は変更となり、話も大きくなっていきます。
プレゼンを終えた帰りの新幹線で当時のメインプログラマーと「どうせＲＰＧにするなら正統派で少年少女の冒険物語にしよう」と覚悟を決めたのを思い出します。
実際は、なかなかそうはならないのですが…。
試作で出来上がった画面は、どう見ても横スクロールのアクションゲームでＲＰＧと銘打つには少々無理がありました。
少しでもＲＰＧだと認識してもらうために、あえて設定と物語は王道かつ、ありふれたファンタジーというコンセプトに決まります。

いろいろと誤解がある題名ですが、「プリント倶楽部」とはまったく関係なく企画立案時からタイトルは「プリンセスクラウン」略称で「プリクラ」と呼ばれていました。その後、女子高生がプリクラと言っているのを聞いて逆に驚いたぐらいです。
当時はそれでも特に気にしていませんでしたが97年のゲームショーに出展する際、上司からプリクラの名前は止めてくれとのお達しがあり一時的に「ブックオブソーサリーズ」という仮題になります。
最終的には、「物語も設定もお姫様（本当は女王ですが）と王冠を題材に作ってきたのに」と無理を言って「プリンセスクラウン」に戻してもらうのですが、正しい判断だったか未だに悩みます。

開発を進める中で時間の関係上、取捨選択された仕様も多くありました。
特にシナリオは大幅に削った部位です。

ＲＰＧとなった時点から多視点で語られるシナリオの設計ではあったのですが、練りこみやすさから一人の主人公を掘り下げて作ることに決定します。グラドリエルが世界を漫遊する第１部、魔王との戦いの第２部、そして世界の真実がわかる第３部というのが当初の構想でした。
おそらく日の目を見ることはないと思うので以下に３部の大雑把な内容を記します。

第３部でこの世界は地球から鎖でつながれた天空の大陸という事実が判明します。
魔王との戦いで背景に見える地球と地球へと続く鎖がその設定の名残です。
魔界とは浮遊大陸の裏側（地球が見える影側）のことを指していました。魔法でデーモン化した兵士が戦う魔法大戦で地球の文明は滅び、多くの兵は心を失い世界は無秩序な状態におちいります。最後に残った国が大地ごと地上から離れて空高くへと避難するのです。魔王ヴォーグロドは戦争で魔神と化し戦った、大陸のもともとの王子でした。
避難してからも地球から幾度となくデーモン兵が鎖を伝い上がってきています。魔王とその部下のデーモン兵はそれらの脅威から大陸を守る役目を担っていたのです。そして長い時の中でその目的は失われてしまいます。

…こんな感じで（作り手の）ボリュームは相当なものでした。スケジュール上、明らかに無理な第３部はまず削られます。

また某有名ＲＰＧのように様々な召喚獣を呼ぶシステムも考えられていました。
召喚獣数体はすでに完成していたのですが、工数の都合上途中でボツとなります。
魔法使い系の敵が時折召喚する星々の王、サラマンダ、アルラウネなどが再利用されたそれです。

当初は夏の発売だったのですが、開発の遅れから最終的には１２月１１日セガサターン用ソフトとして「プリンセスクラウン」は世に出ます。
その後、開発チームはばらばらになるのですが、一部でプレミアがつき、ソフトが話題に上るのはそれからずっと後のことです。

今回はその方々の声が届いて、８年を経てＰＳＰで復活という予測していなかった事態となりました。正直８年前の作品で恥ずかしいやら、うれしいやらで複雑な気持ちです。本当に驚きました。

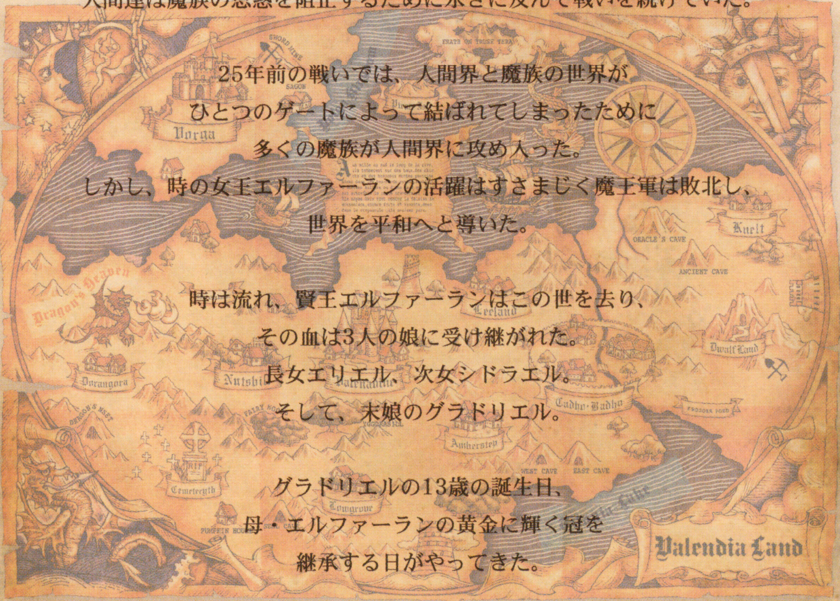
このタイトルで私は初めてディレクターを務めました。気負ってしまい、うまく開発運営ができたとはお世辞にも言えません。
多くのスタッフの力があったからこそ、なんとか世に出すことが出来ました。

やりたいことを好きなだけ優先したプリンセスクラウンは、私自身楽しんで作れた思い出深いタイトルです。

「プリンセスクラウン」
手にとられたあなたに楽しんでいただけたらと心から切に願います。

Story

古き伝承において、世界を統べる魔王ヴォーグロドは
この世界の何処かに鎖で繋がれており、
その強大な魔力で世界を支える制裁を負っているという。
魔王の下僕である魔族達は魔王を戒める鎖の封印をとく為に、そして
人間達は魔族の思惑を阻止するために永きに及んで戦いを続けていた。



25年前の戦いでは、人間界と魔族の世界が
ひとつのゲートによって結ばれてしまったために
多くの魔族が人間界に攻め入った。
しかし、時の女王エルファーランの活躍はすさまじく魔王軍は敗北し、
世界を平和へと導いた。

時は流れ、賢王エルファーランはこの世を去り、
その血は3人の娘に受け継がれた。
長女エリエル、次女シドラエル。
そして、末娘のグラドリエル。

グラドリエルの13歳の誕生日、
母・エルファーランの黄金に輝く冠を
継承する日がやってきた。

グラドリエル=ド=ヴァレンディア、

新たな統治者となる少女は
民衆たちの魔物に脅かされた生活に心を痛めていた・・・。



アーリア

お喋りが大好きな
可愛い妖精。
グラドリエルの
役に立つために、
大きな剣やアイテムを
一生懸命運んでくる。

age : 13
height : 148cm
weight : 40kg
blood : A

黄金の冠を頭に抱く、
愛らしいヴァレンディアの女王。
小さな胸に、誇りと勇気を秘めている。
彼女の振るう剣は銀光となり、
禍々しき者を貫くだろう。
冒険の旅では目を見張る活躍を見せるが、
姉姫からもらったお守りや、
母から受け継いだ耳飾を
大切にしている少女らしい一面もある。
従者のアーリアとお喋りするのも大好き。
耳を澄ませば、彼女達の笑い声が
聞こえてくるかもしれない。

Gradriel

グラドリエル=ド=ヴァレンディア
Gradriel de Varendia



イグニス

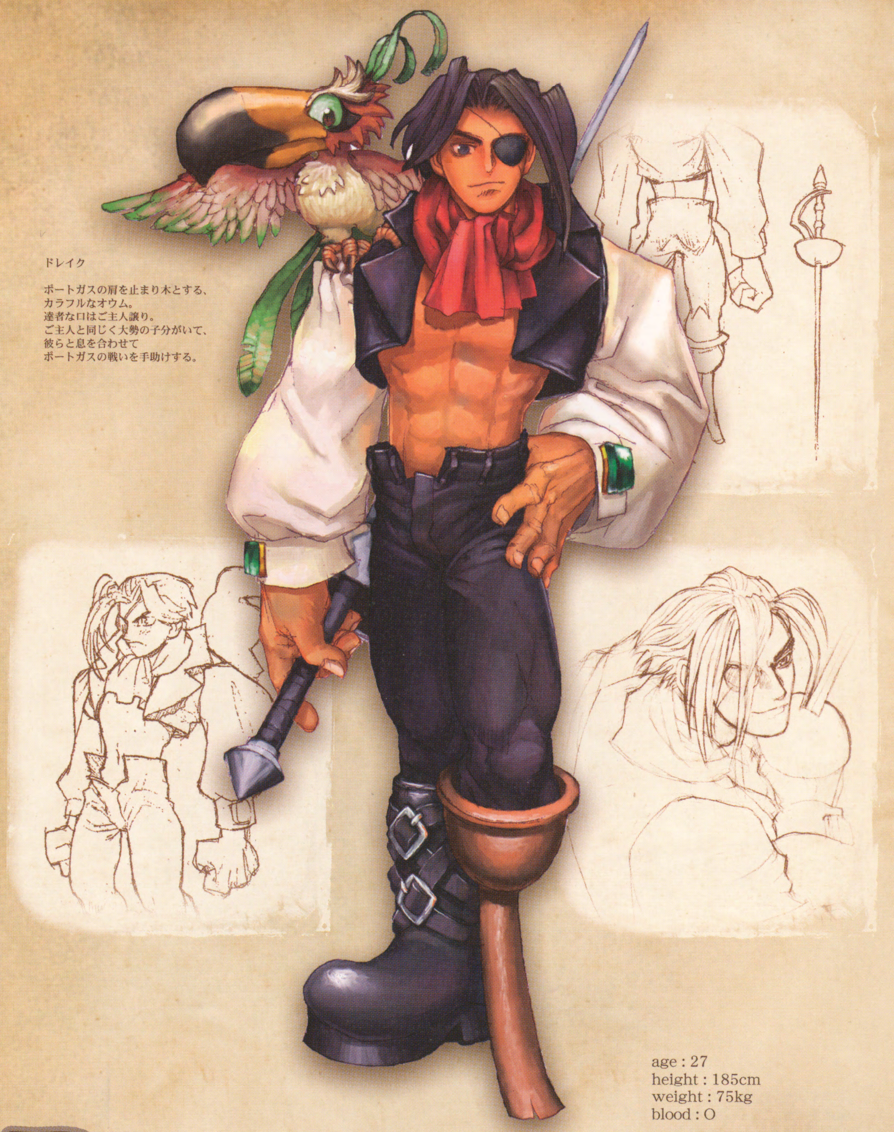
とても賢い真っ赤な
ドラゴンパピー。
鼻から炎の息を
吹き出して、
一生懸命エドワードに
ついて行く。
普段は温和だが、
ご主人のピンチには、
得意の頭突きを
敵にお見舞いする。

age : 16
height : 178cm
weight : 72kg
blood : B

身の丈程ある大剣を軽々と操り、
最強の魔獣ドラゴンを一撃で屠る、
歳若きドラゴンスレイヤー。
強い眼差しの影には、魔人の息子として
迫害された過去が悲しく揺れている。
そっけない言動は誤解されやすいが、
人々をさりげなく手助けしているようだ。
ドラゴンの山で出会ったラベンダーの髪の少女の
ひたむきさに心を動かされ、
少しずつ打ち解けていく。
彼は知らない。
その少女こそが己が剣を捧げたいと願う、
ヴァレンディアの女王だと。

Edward

エドワード=グロースター
Edward Growstar



ドレイク

ポートガスの肩を止まり木とする、
カラフルなオウム。
達者な口はご主人譲り。
ご主人と同じく大勢の子分がいて、
彼らと息を合わせて
ポートガスの戦いを手助けする。

age : 27
height : 185cm
weight : 75kg
blood : O

何者にも縛られない
海風のように自由な心を持つ男。
会話も仕草も全てがスマート。
彼のレイピアは漣のごとく冴え渡る。
大勢の子分を持つ海賊の頭だが、
決して一般の商船には手を出さない。
彼が海の義賊と呼ばれる所以である。
海面に映る紫の月影は、
遠い昔に失くした愛しい瞳を、
ポートガスに思い出させる。

Portgus

ポートガス=クリスフォード
Portgus Chrisford



ガブリエル

もっとも忠誠心の低い従者。
プロセルピナの変身魔法を食らわないために、
アイテムを運んだり、敵に突っ込んだり、涙ぐましい努力を続ける。
いつかはオイラがご主人様ルルー！

age : 10
height :
140cm(ホントは138cm)
weight :
カエルにしちゃうよ？
blood : B

陽気でワガママいっぱいの魔女娘。
大好きな赤いローブに身を包み、今日もあちらこちらで大騒動を巻き起こす。
歌いながら魔法のステッキを振るえば、あら不思議。
みんなカエルやアヒルに早変わり。
従者のゴブリン、ガブリエルとはオヤツを取り合う仲。
あっ。あたしのフルーツケーキがないっ！ガブリエル、また取ったわねー！
プロセルピナは今日も元気。

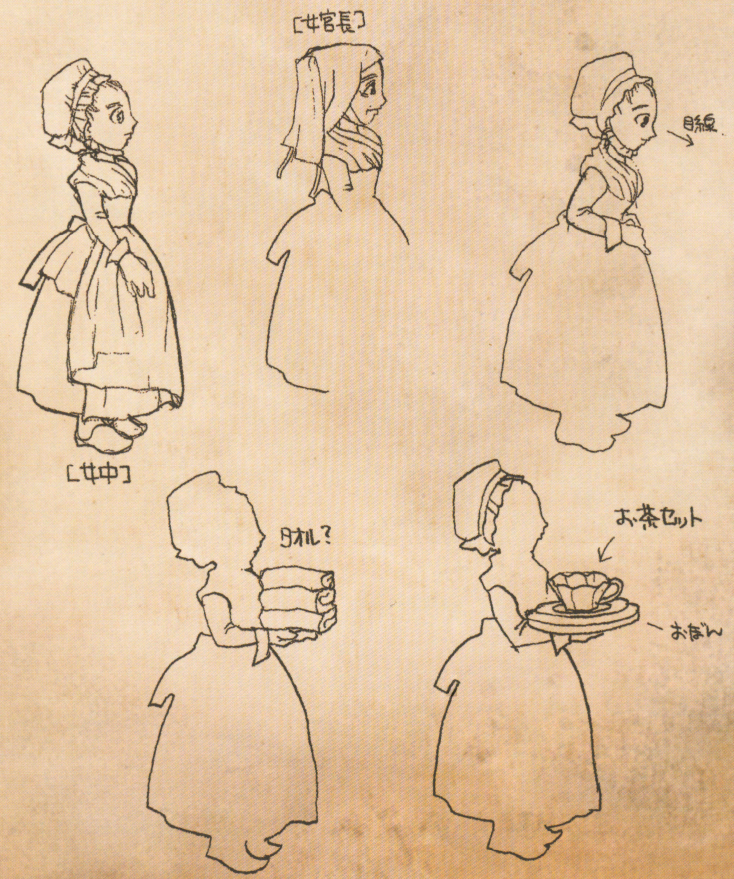
Proserpina

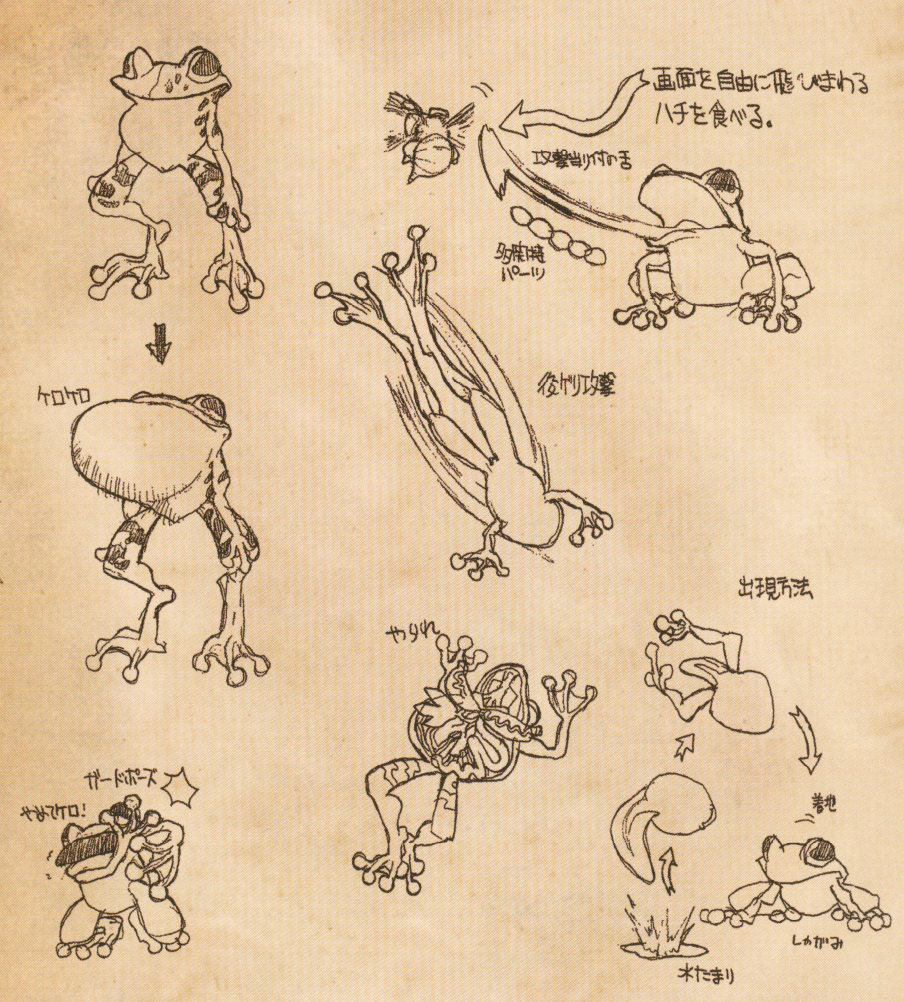
プロセルピナ
Proserpina

OtherCharacter





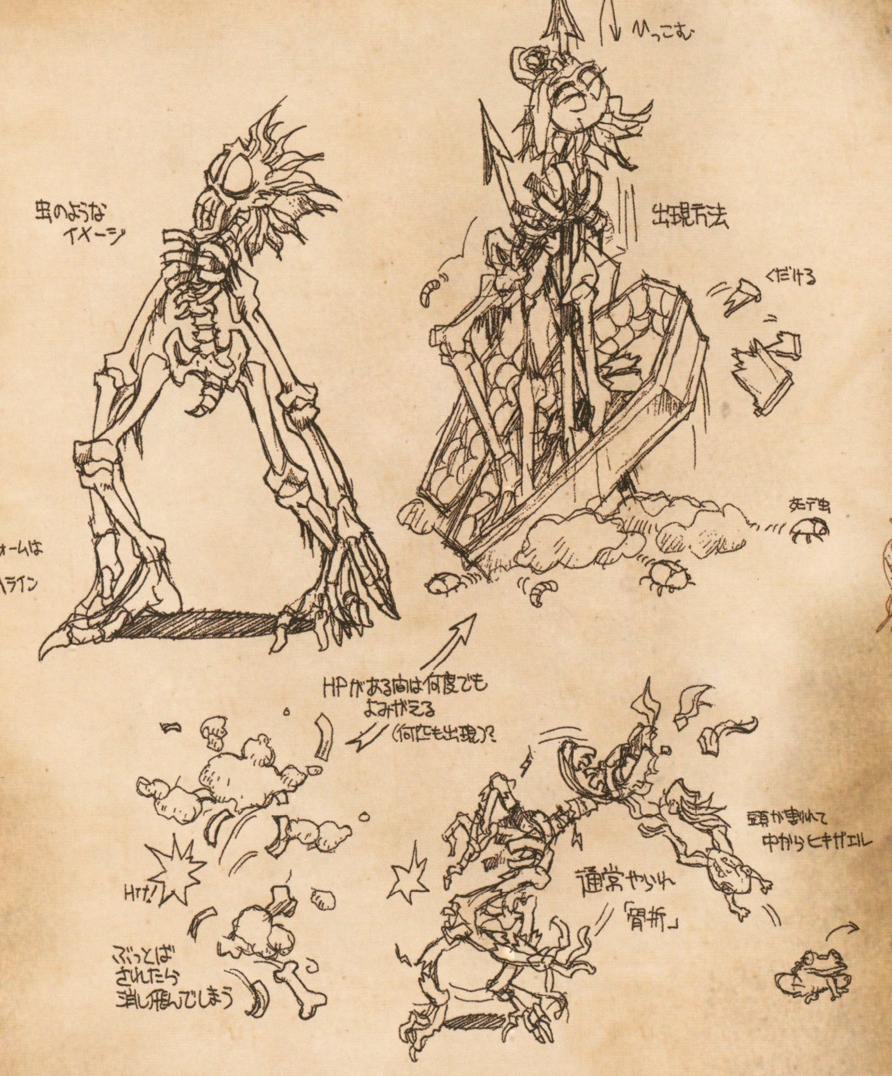




Frogger

グラドリエル
「ただのカエルと侮ってはなりません。
彼らは、その脚力を生かして襲い掛かってきます。
雷を呼ぶ者もいますよ。
大変素早く、攻撃をかわされやすいのです。
いかにしてスキを突き、攻撃を当てるかが、
勝負の分かれ目となるでしょうね」

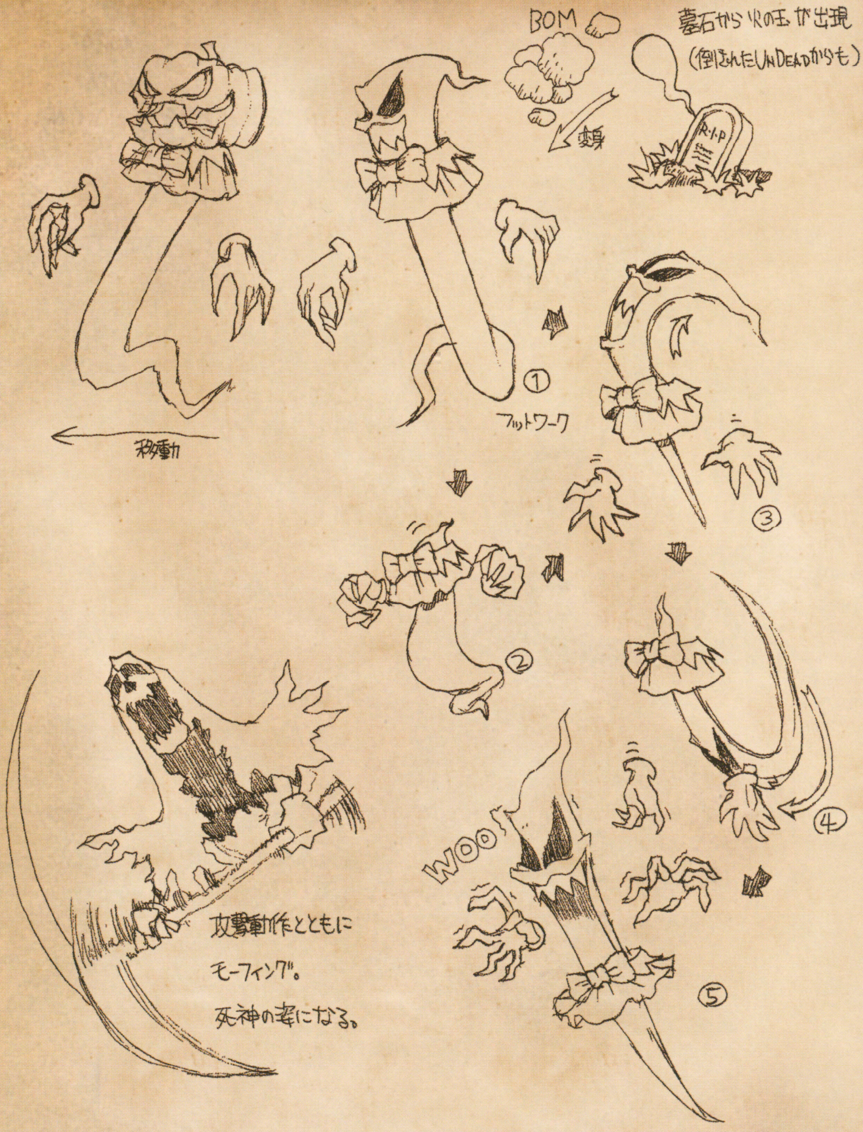
フロッガー
Frogger



Ghoul

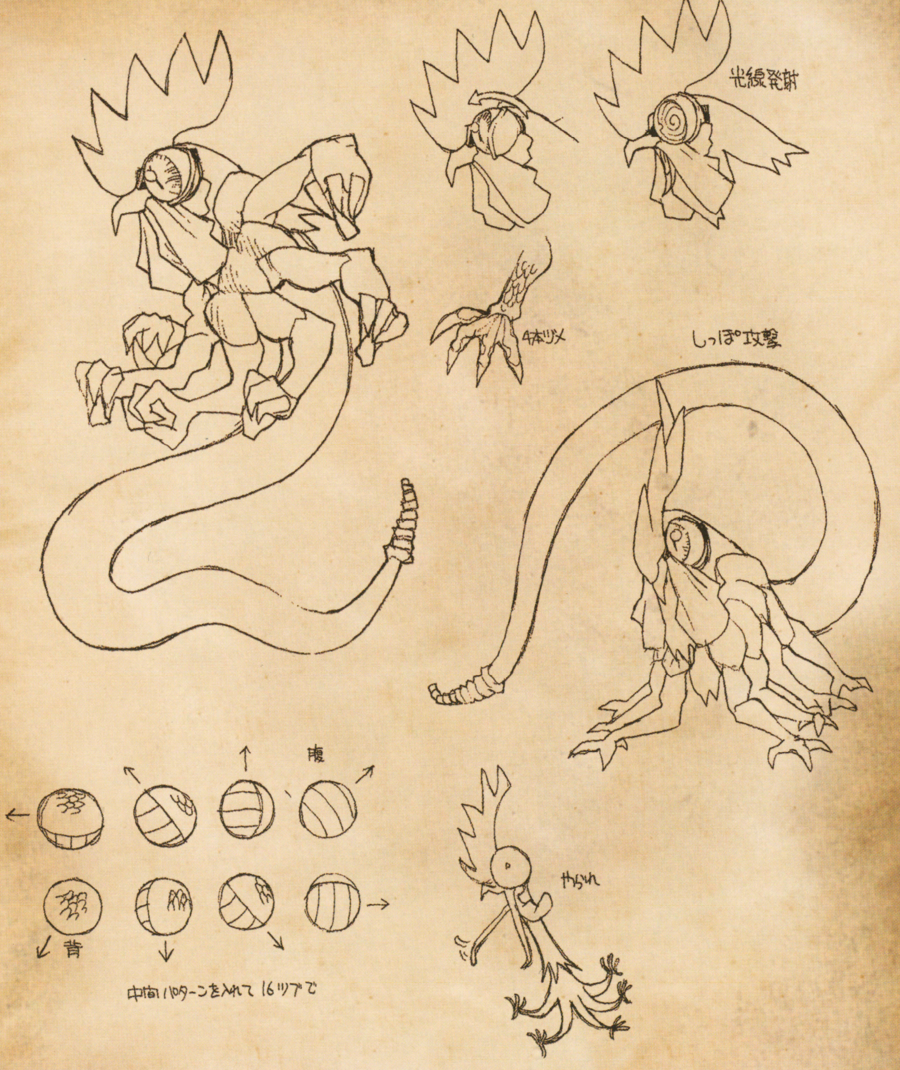
プロセルピナ
「あたし、こいつダイッキライ。
手がハサミみたいになるわ、
顔だけ飛んでくるわ。
オマケに嘔吐攻撃?
レディに対して失礼よ。
ちょっと、寄らないで!
茨の椅子になんか座らないってばー!」

グール
Ghoul



Ghost

エドワード
「死に切れなかった軟弱者のなれの果てだ。
嘆きの精霊を呼ぶ事もあるが、はっきり言って敵じゃない。
弱点が多いからだ。
聖水や、神聖なる紋章、雷神剣の呪文…。
まったく柔な連中だぜ。
こいつらに負けるようじゃ戦士廃業だな」



Basilisk

エドワード
「鶏の頭と六本の腕を持つ蛇の王、
それがバジリスクだ。
奴らの目を迂闊に見つめるな。
邪眼の力により、石となりたくなければ、な。
熟練の戦士であれば、
メッキの呪文を用意するだろう。
確かに強い魔物だが、恐れる事はない。
勇気をもって立ち向かえば、
勝利はお前のものとなる」

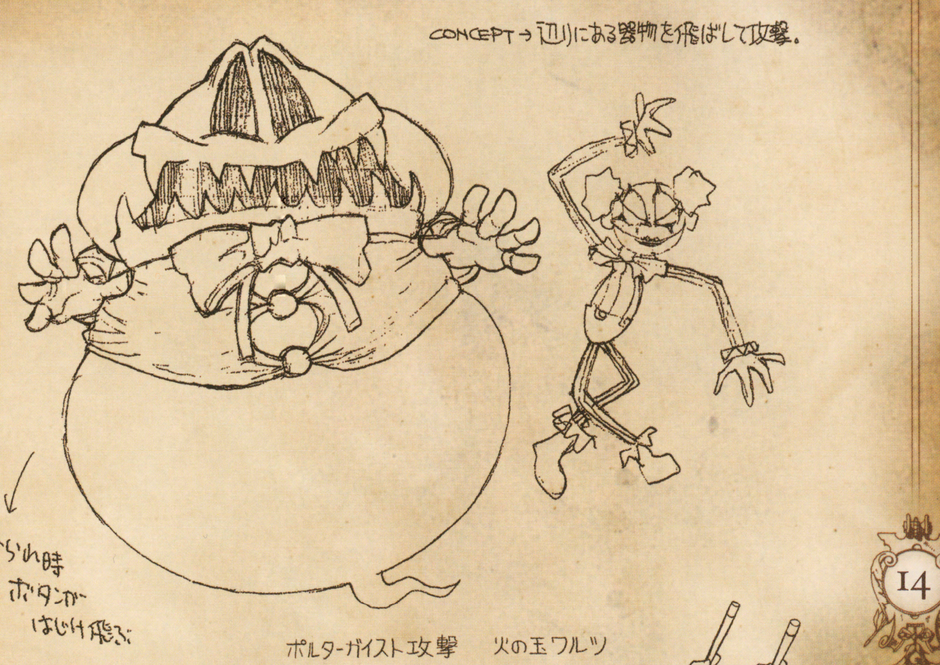




ポートガス
「麗しの人魚姫、
なーんて思ってると大怪我するぜ。
歌声で人を惑わせる海の魔物だからな。
虹色の鱗は固く、
尾びれも剣みたいに鋭い。
見惚れてる間に、
腕をザックリやられた水夫も多いんだ。
その仲間入りはしたくないだろう？
歌われる前にトドメをさすのが、
賢い海賊ってもんさ」

Siren

セイレーン
Siren





プロセルピナ
「コイツは、風船みたいに
膨らんだデブ幽霊なの。
着ているチョッキが
はち切れそうで笑っちゃう。
でも、戦うのは
なかなかやっかいなのよね。
人形や皿を操って
投げつけてくるし。
コイツが指をパチンと
鳴らしたら要注意よ。
え？　何が起こるか？
それは、戦ってからの、
お・た・の・し・み」

Poltergeist

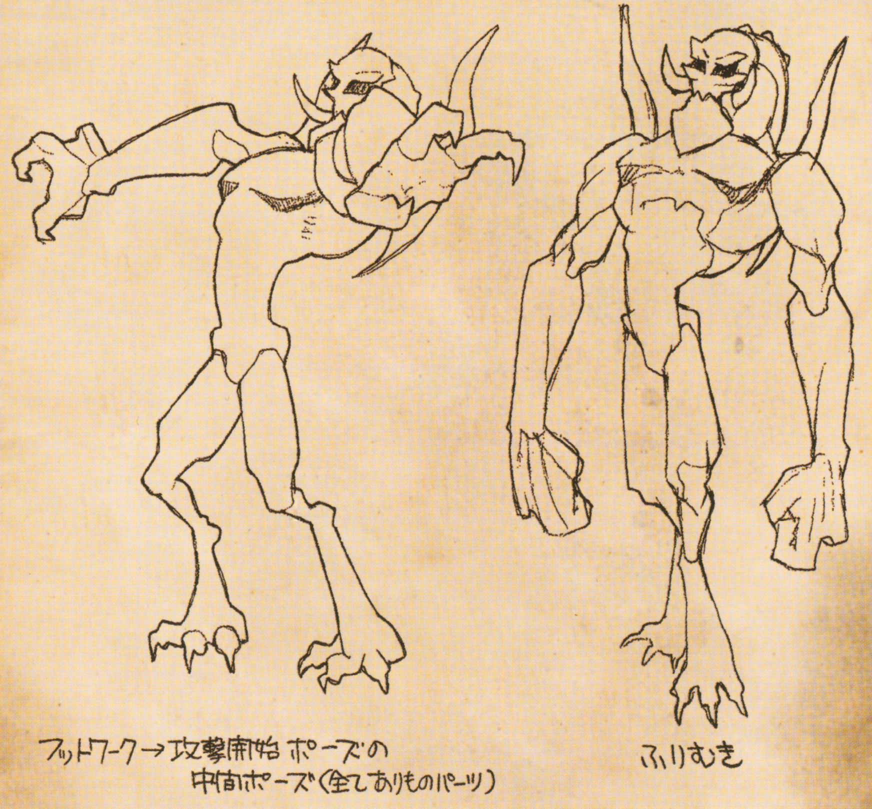
ポルターガイスト
Poltergeist



ポートガス
「妖艶な美女を思わせる魔物だ。
熱い抱擁は強烈で、竜巻に、蹴りに、
爪とフルコースで歓迎してくれる。
落とすコツはそうだな。
盾を装備してガードに徹する事かな。
押すばかりが男じゃない。
時には耐えてみせる事も必要だぜ」

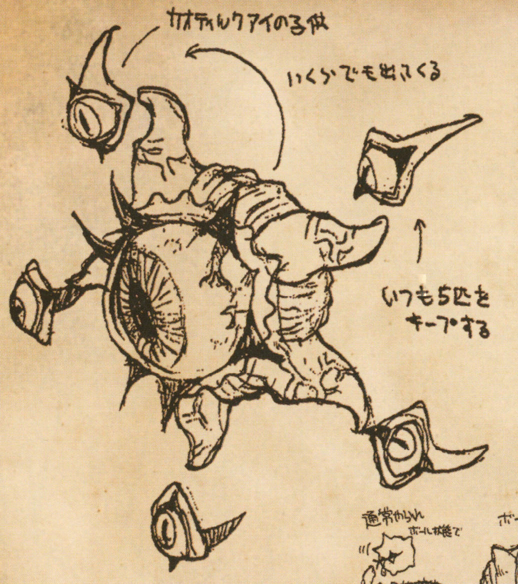


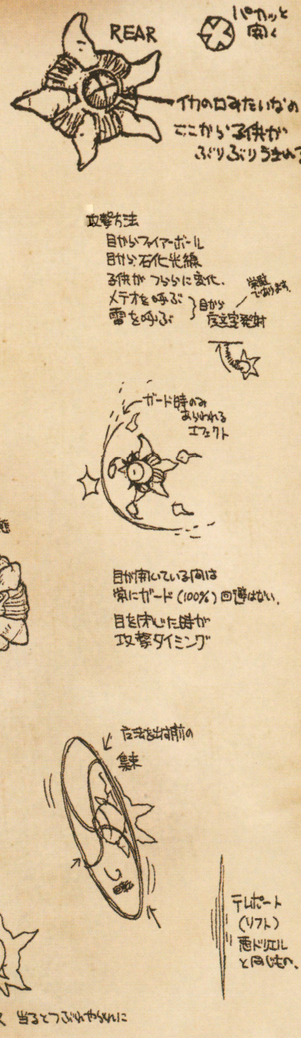
Griffon



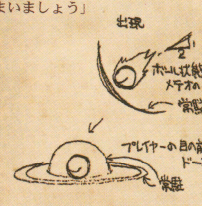
グラドリエル
「魔界に住まう魔王の下僕達です。
その爪は鋭く、魔力は強く。
まさに強敵と呼んで差し支えのない相手でしょう。
攻撃のスキを突く事を得意としている為、
立ち向かうには慎重さが求められます。
魔法石を有効に使い、
勢いをこちらに引き込みましょう。
大丈夫、正義は我らと供にあります」

Demon





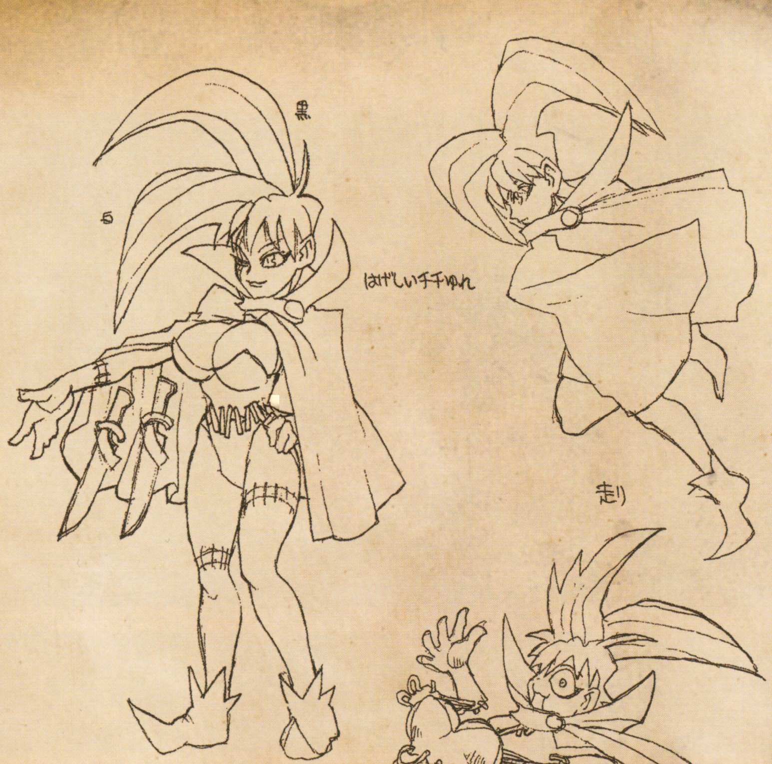




グラドリエル
「魔物達の中でも、
特に恐ろしい風貌なのが彼らです。
塔の中などで出会うと、
思わず悲鳴を上げそうになります。
テレキネシスや魔法が得意で、
備えがないと苦戦を強いられますね。
先手をとって、
魔法石などで動きを
封じてしまいましょう」

ChaothicEye

カオティックアイ
Chaothic Eye

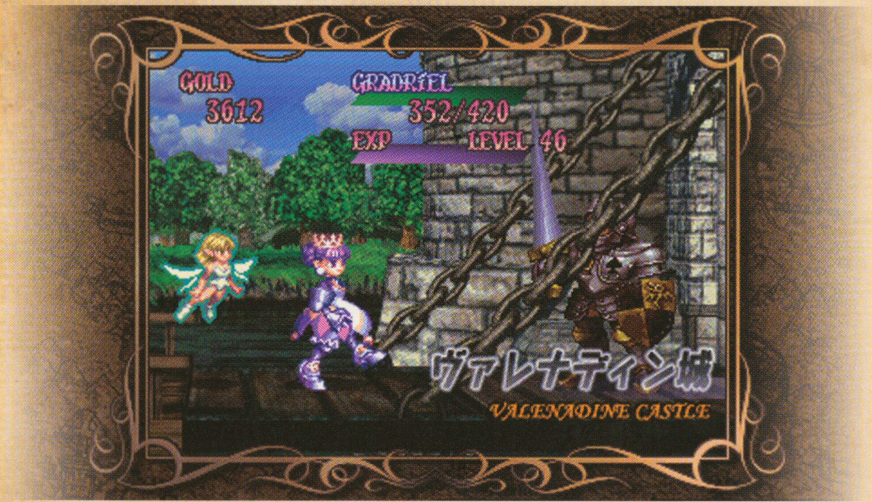


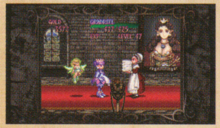


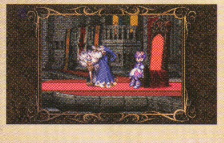
リヨン
「サマンサ、私の忠実なる僕。
目覚めるのだ。
その指も、その瞳も、全て私が吟味した最高の物。
闇を振りまき、血を流せ。
歯向かう者は八つ裂きにせよ。
そして我に光の王冠をもたらすのだ……」

Necro Samansa

ネクロサマンサ
Necro Samansa





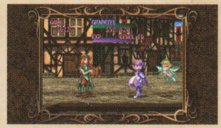



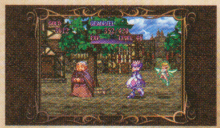
国の北部にそびえ建つ美しい白亜の城。光の女神ガイアの祝福を受けた女王が、代々住んでいる。
城門は常に国民に対して開かれており、王家と民達は温かな絆で結ばれている。
天気の良い日には、４階のバルコニーから王家の貴人達が姿を現すのが慣わしである。
現王家の３姫も、バルコニーから民を祝福することを喜びとしている。
薔薇のエリエル、白百合のシドラエル、そして女王グラドリエルの心優しさを人々は称え、
彼女達こそ王国の至宝だと賞賛を送る。
姫君達を守るのが、王宮魔術師ジェストナイと、王国最強のカード騎士団である。
また、城内には司祭や女官、詩人達も仕えており、女王を影ながら支えている。
光に満ち、愛と信仰溢れるこの城こそ、平和の象徴と呼べるであろう。

Valenadine Castle

ヴァレナディン城
Valenadine Castle



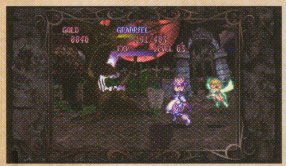


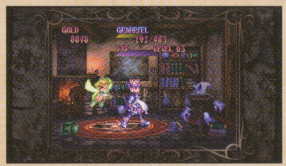
女王陛下のお膝元。
大通りには、酒場や道具屋、薬屋に旅の魔方陣までがズラリと並ぶ。
道行く人はみな親切で、挨拶をすれば明るく返事をして、お喋りをしてくれるだろう。
忘れてならないのが、酒場コカーニュ亭の名物料理、おべんとパン。
焼きたてサクサクパンに、ドードーの産み立て卵の目玉焼きが乗る。
ヒゲのマスターが焼く目玉焼きは、焼き加減が絶妙で、半熟トローリ。コツは弱火で仕上げることらしい。
湯気の立つおべんとパンを購入したら、ヴァレナディン城を見ながら頬張るのが、ヴァレナディンっ子の心意気である。

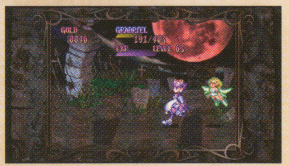
Valenadine City

ヴァレナディン城下町
Valenadine City









暗い森を命からがら抜けると、
そこは紅の月に照らし出される墓場の街セメタリス。
街の住人は当然死霊達だ。

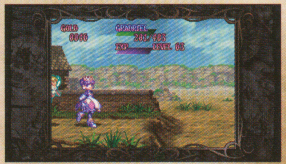
唯一の生者エサソン司祭が、日々死者を鎮める祈りを捧げている。
セメタリスの南東には、ゴーストの酒場パンプキンハウスがある。
主人のハロウィーンご自慢のやきもろこしは、
血の色バーベキューソースに三日間漬け込んだ物。
大変美味だが、食べたいような、食べたくないような！？

Cemeteryth









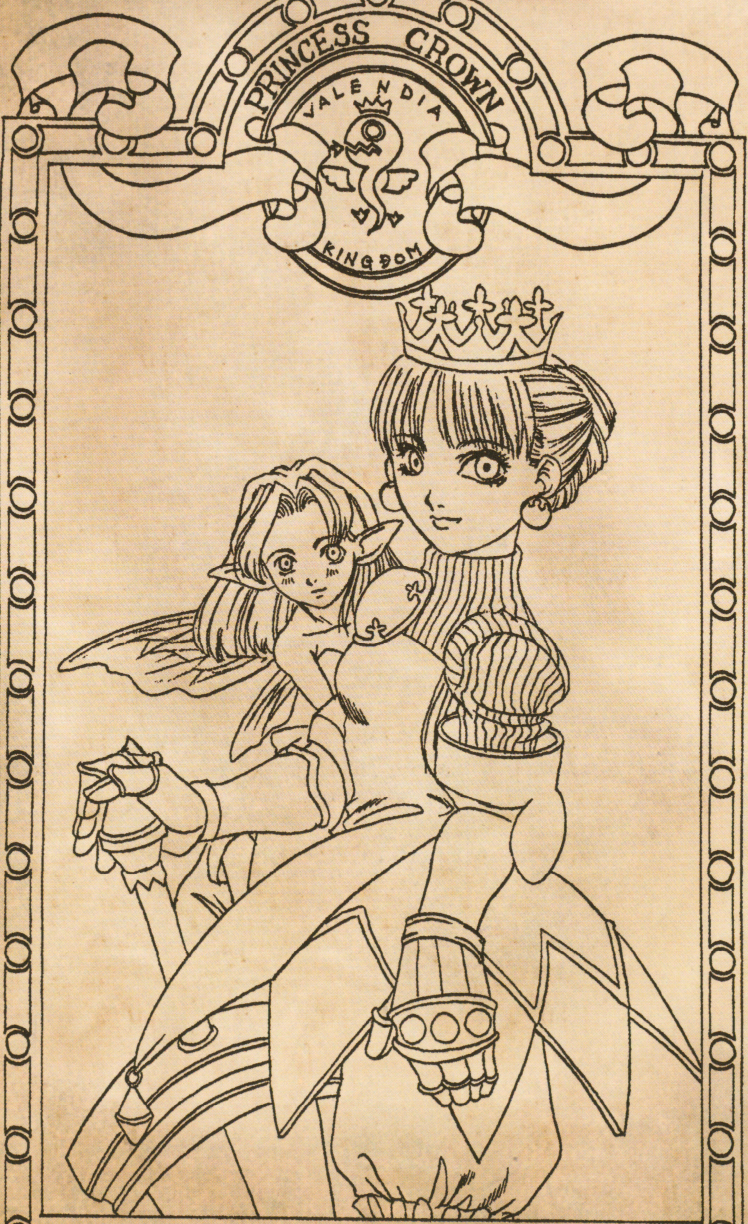
王国唯一の砂漠地帯に位置する村。
乾いた風の音が常に村に響いている。
砂漠の暑さをやり過ごすために、石造りの建物が多いのが特徴だ。

この村には歳若き魔法使いが住んでおり、村人からリヨン様と呼ばれ慕われている。
暑さに疲れた身体は、入り口近くの酒場、ひとときの憩い亭で癒そう。
井戸水でキンと冷えた飲み物と一緒に食べたいのが、やきもろこし。
甘く粒ぞろいのとうもろこしに染み込んだ特製のタレが、やめられない美味しさだ。

Amberstep









DESIGNED BY
MEGUMI TOGO(DREAMCUBE CO.,LTD)

DIRECTED BY
JUNICHI MORI(ATLUS CO.,LTD.)
AYA SASAKI(DREAMCUBE CO.,LTD)

CHIEF EDITORS
GEORGE KAMITANI
ATUSHI MORITA(ATLUS CO.,LTD.)
IKUYA KOBAYASHI(ATLUS CO.,LTD.)

COOPERATED BY
VANILLAWARE Ltd.